

図を広げながら将来の街づくりを……

生まれ変わりつつある留萌市の表玄関

うルトがなければ、物資の流通が果されません。

また、緊急の場合の市民の不安を解消するためには、港と道路の関連で、新見では、港と道路の関連で、

具体的には、どう変わるのですか。部長 港から背後消費地へ、街の中を通らず、産業パイパスの造成を進めなければなりません。

これは、現在埋立が予定されている留萌港副港の完成年度とも合わせ、近代的な利用価値のある土地にしなければなりません。

佐藤 では、このことにより、市民生活はどうなるんですか。部長 もちろん道路、排水、公園などの公共施設整備を、第一の柱とし、市民が不利益をこうむってはこの事業の目的は達成されませんから。

この事業が完成されると、環境整備も、ずっとやりやすくなりま

すからね。

市でも、四十二年から、留萌市総合都市計画」という計画を立て

行政全体をモータライズした中からまず今年から区画整理事業がスタートしたわけですね。

佐藤 やはり将来性を考えているわけですが、今後、この事業と同時に、企業誘致などによる産業というの地区的に考えていることでしょうか。

部長 もちろん計画の中には、すべての事が盛り込まれており、道路の場合は交通量を推定し、このことから、市民が安心して生活できる環境整備、そして生活安定のための企業など、留萌に合った物を考えています。

佐藤 では、もう少し詳しくこの事業を説明していただきたいのですが。

部長 人間がいかに生活しやすくするか、そして整理された街づく

りこれが都市計画の目的ですからその目的にあったように進めなければなりません。

まず副港が四十七年埋立が予定されていますから、南岸壁から駅前を一本の道路で結び、港からそのまま旭川方面へ車輛が向かいます。

また、駅前整理事業は四十九年完成されると第二工区（高砂町、五十嵐町方面）事業がスタートしますが、この地区と結びながら大和田方面へ抜ける産業パイパスも完成されるでしょう。

それから、南岸から黄金岬を通り瀬越へ抜けるパイパスが予定され、国道二三三号線（増毛方面）へ抜ける道路を作ると、現在、開発が工事を進めている通称雄冬街道へ結ぶと、札幌と留萌の交通ル

ートが開けますね。

雄冬街道が昭和五十年完成といわれ、また、合わせて計画をしています。

なにか道路の話ばかりになってしまいましたが、もう一度戻って見て駅前はどうですかね。

駅前はその市の顔です

佐藤 僕らが他の都市へ行くと、

印象に残るのはやはり駅前広場です。花壇などがあって広く整備されていると、街の中を見ないのに、いいなあと思いますよ。

新見 修学旅行でも、やはり歴史なんかの事は忘れてしまつて、駅前だけ覚えていますよ。

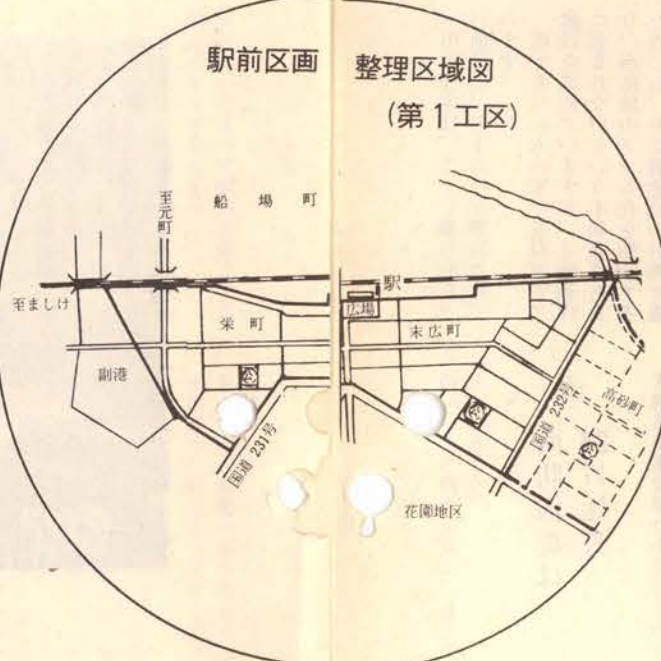
佐藤 いわば市の顔ですか。留萌市として、特色のある駅前には、佐藤 でも、今の駅前には芝布が植えてあって、のんびりできるスペースがほしいね。

部長 それは、すべて完成した時点では芝布などを植えますよ。それから駅から街に向かって、左側を四メートルほど拡巾します。また、近隣町から留萌に入る人のショッピング街となるでしょうね。



整理されつつある留萌駅前

新見 そうだね。そしたらぶらぶら歩きながら店をのぞく人も多くなるだろうし、購買力があがるだろうし、それと駐車場は広くほしいね。部長 そうですね。やはり近代都市への街づくりはいろいろな事が考えられますが、とにかく明るい街づくりと、留萌を象徴する駅前広場造りを進めて行きます



駅前整理事業のあらまし

この事業は、駅前を中心とし、従来、無造作に作られた家並などを、整備し、近代都市化しようというものです。

この地区は、環境整備などが十分になされていないため、今後の市発展のためにも、街路整備、公園、公共施設などを整備改善し、商業、住宅地として、理想的な市街地を作ろうというものです。とくに、駅前地区は、隣接町のショッピングセンターとしての大きな役割と、将来市の中心地とな

ることが想定されています。

港湾都市として、発展しつつある留萌市の将来は、大型荷物の増加、背後地への輸送施設を増設することが、大きな課題といわれてきました。

このため、この事業とあわせ、主要幹線街路と共に、これらに関連する区画街路二十二本も新設されます。

この整理事業は、第一工区と第二工区にわけられ、第一工区は、昨年から五カ年計画四十九年完了予定で進められ、栄町一、二丁目末広町二丁目、開運町の一地区などが、この工区に該当します。

この第一工区が完了すると、続いて第二工区（高砂町、五十嵐町方面）に着工することになります。ほぼ完成された駅前広場は、二

千九百六十一平方メートルで、アスファルト舗装、駐車場などが敷設されました。

駅前から、まっすぐに花園地区へ通る駅前道路の現在市十八号を右片側に四四拡巾し、二十二号とします。

また、港湾との関連もあり、南川沿通り（船場から元町踏切り間）の四百八十二号、早道通り九百号などを舗装、東岸踏切り立体交差などを行ないます。

一方、この整備事業では、道路整備もさることながら、子供たちを交通事故等から守るため児童公園、遊び場などを新設します。

公園は、末広公園二千六百三十三平方メートル、栄町公園九百二十平方メートルの二カ所で、ブランコ、シーソーなどの遊戯施設、一部芝植樹が行なわれます。

この街づくりをするためには、この地区の家屋五百七十戸の内、約半数の家屋の移転等を行なわなければなりません。



佐藤洋一君



新見和夫君



佐藤市建設部長